

諸生党建言

内藤 弥太夫

(中上)

乍恐先君烈公告志篇を著して廣く士民へ諭し玉ふ其第一條に忠孝之本意を述させ玉ふ次に人々天祖東照宮の御恩を報んとして惡く心得違ひ眼前之君父を指置直に天朝公邊へ志を盡さんと思はゞ却て啓亂之罪遁れ間敷旨を述させ玉ひし事我藩の臣子たる者何れと心得可罷在事に候所近來狂暴の士民等尊王攘夷之名を借て累代厚恩の君上を指置ま各其身の分限を忘れて天朝の御明德を奉誣他國浮浪之惡徒をかたうひ國中無罪の良民を苦の徳川家御親藩之臣下として妄に將軍家を輕侮し昇平之至恩を忘れて反亂の大逆を企無體之暴論を以て數は君上に奉逼禮々の流言を作りて多く異論の良臣を退け賄賂を貪り私黨を張り祖宗之法度を破り士民之禮分を廢し加之東西に奔走しては公武の御中を奉妨上下之情を壅塞して君臣の通路を絶ち其他の惡業不逞枚擧是を以て先君烈公の御遺志と稱し我水國眞の義勇を轉じて虎狼之國とあし貪亂無禮の逆民を冀めて忠孝篤實の世臣を用ひず終には一國の君臣上下悉く反亂之賊に陷ん事眼前にて士民之耻辱千載之汚名無此上臣子之身分決て等閑に可相逼時節に無之且我々は是迄日々弘道館に出入し文武之業を勤めて以て君上の恩に報せん事を謀る今此時に當て國之逆臣を除き賊之横行を制するに非んば何を以てか地下に烈公に見へ奉らん故之面々忠憤難默止自然一同集會化候上は共に心を一にし力を合て是非黑白を辨明し是を天下に明にし年來之誠心を相達し眼前君上之御配慮も可奉安一同之本意に御座候故此段由上置候以上